

平成元年度事業報告

概要

平成 31 年 3 月末日をもって、神戸フィルハーモニックは(公財)神戸市民文化振興財団の運営から離れ、自主運営を開始した。運営基盤を整えるために、社団法人とすることを決意し、平成元年 5 月 10 日に、一般社団法人神戸フィルハーモニック協会を登記・設立した。本協会は、定款にて「交響管弦楽その他の音楽の普及振興を図り、もって神戸文化の向上発展に寄与する」ことを目的として掲げ、1979 年に発足した神戸フィルハーモニックを存続させることを当面の目標とし、これまで同様に演奏を提供するための活動を開始した。本年度の事業の概要は以下のとおりである。

①年 2 回の定期演奏を例年通り実施した。特に本年度は創立 40 周年にあたり、「創立 40 周年記念コンサートシリーズ」を開始し、第 78 回定期演奏会、および第 79 回定期演奏会をそれぞれ、第 1 回、第 2 回として実施した。来年度実施の第 80 回定期演奏会をもって第 3 回とする予定である。

②恒例のニューイヤーコンサートは主催公演とすることを断念し、井戸敏三 兵庫県知事ならびに村井敬 (株)村井敬合同設計 代表取締役等のご尽力を得て、公益財団法人日本芸術協会の主催とし、「神戸フィルハーモニック 2020 ニューイヤーコンサート」を「神戸芸術センター 芸術劇場」にて成功裏に開催した。

③8 月に小編成の「チャリティーコンサート」を開催し、その収益等をもとに第 9 回となる「東北訪問演奏」事業を実施した。同事業に対しては、兵庫県より補助金を受領している。

④その他のオーケストラ公演として、(公財)神戸市民文化振興財団より「市民の第九」の演奏を受託した。

⑤そのほかに、小編成の依頼演奏を 3 件受託するとともに無償のボランティア演奏も数回実施している。

⑥財政基盤の確立が急務であるが、神戸市が本年度創設した「神戸市文化芸術団体支援事業助成」制度に応募した。審査の結果「つなぐ KOBE アート募金」助成団体に指定され、ふるさと納税の使途指定寄附をもとにする助成金を受領した。この指定は、3 年間継続する予定である。

⑦当協会の目的を達成するための事業のひとつとして「音楽家の育成」を実施するが、新たに「研修生」の制度を設け、音楽を専門に履修している大学生 1 名を採用した。

⑧財務では、神戸市助成金を得たこと、受託演奏による収益があったこと、またニューイヤーコンサートを他団体の主催とした等により収支がほぼ同額で、法人会計を含めてわずかな赤字となった。

I. 事業の状況

1. 定期演奏会

①第 78 回定期演奏会

共催: 神戸フィルハーモニック後援会、(公財)神戸市民文化振興財団、
2019 年 6 月 29 日(土) 14:00 開演、 神戸文化ホール 大ホール
創立 40 周年記念シリーズ Vol. 1 「神戸フィルの歴史と未来」

プログラム

～ウィーンの音楽～

1. J. シュトラウス 2 世／喜歌劇「こうもり」序曲
2. W.A. モーツァルト／交響曲第 25 番ト短調 K. 183
3. J. ブラームス／交響曲第 2 番ニ長調 op.73

指揮: 朝比奈千足

入場者数: 601 人

②. 第 79 回定期演奏会

共催: (公財)神戸市民文化振興財団、後援: 神戸フィルハーモニック後援会
2019 年 11 月 30 日(土) 14:00 開演、 神戸文化ホール 大ホール
創立 40 周年記念シリーズ Vol. 2 「神戸フィルの歴史と未来」

プログラム

～未来に向かって～

1. L. V. ベートーベン／「エグモント」序曲 Op. 84
2. F. ショパン／ピアノ協奏曲第 1 番ホ短調 Op. 11
3. A. ドボルザーク／交響曲第 8 番ト短調 Op. 88

指揮: 石井 勇魚

ピアノ独奏: 原 由莉子

指揮: 朝比奈千足

入場者数: 698 人

2. ニューイヤーコンサート

2020 年 1 月 18 日(土) 14:00 開演、 神戸芸術センター 芸術劇場

主催: 公益財団法人 日本芸術協会

後援: (一社)神戸フィルハーモニック協会、神戸フィルハーモニック後援会

プログラム

第 1 部 楽聖ベートーヴェン 生誕 250 年を記念して

[ベートーヴェンはこんな人]

L. V. ベートーヴェン

1. トルコ行進曲 (ピアノソロ・オーケストラ)
2. エリーゼのために
3. ピアノ協奏曲第 5 番変ホ長調 Op. 73 「皇帝」より 1 楽章抜粋

ピアノ独奏: 桑 早穂子

4. 交響曲第5番ハ短調 Op.67 「運命」より1楽章抜粋
第2部 シュトラウス家のワルツ・ポルカで新年を寿ぐ
[もう一人の天才、ヨーゼフ・シュトラウス]

ヨーゼフ・シュトラウス

1. シュネル・ポルカ「休暇旅行」 Op. 133
2. ワルツ・マズルカ「トンボ」 Op. 204
3. ワルツ「天体の音楽」 Op. 235
4. ポルカ・フランセーズ「文字」 Op. 252
5. シュネル・ポルカ「騎手」 Op. 278

ヨハンおよびヨーゼフ・シュトラウス共作

6. ピチカート・ポルカ

ヨハンシュトラウス2世

7. ワルツ「美しく青きドナウ」 Op. 314

指揮: 朝比奈千足

入場者数: 618人

3. チャリティーコンサートと東北訪問演奏

①神戸フィルハーモニックメンバーによる・チャリティーコンサート

後援 神戸フィルハーモニック後援会 東灘区役所

2019年8月24日(日) 14:00 開演、プラザ本山 (本山地域福祉センター2階)

プログラム

- ・トランペット トリオ
- ・フルート&オーボエ デュオ
- ・弦楽四重奏
- ・フルート四重奏
- ・オーボエ デュオ
- ・フルート デュオ
- ・オーボエ 四重奏
- ・トロンボーン 四重奏

(曲目詳細 略)

入場者数: 61人

コンサート会場ロビーにて「募金」を行った

②第9回東北被災地訪問コンサート

共催: 福島県南相馬市立鹿島中学校

福島県相馬郡新地町立尚栄中学校

宮城県本吉郡南三陸町 歌津地区災害公営住宅各自治会

後援: 神戸フィルハーモニック後援会

令和元年9月13日(金) ~ 9月17日(火) の間に実施

- ・「第9回 神戸フィルお茶っこコンサート」

宮城県本吉郡南三陸町災害公営名足住宅及び伊里前住宅の各集会所にて無料のお茶菓子付きサロンコンサートを実施

・「福島県南相馬市石神地区の中学生へのレッスンおよび合同演奏」

福島県南相馬市立鹿島中学校にて、鹿島中学校および新地町立尚英中学校の吹奏楽部の皆さんと交流

神戸フィルハーモニック団員 9 名を派遣

参加者数： 約 80 人

同事業は(公財)兵庫県芸術文化協会 令和元年度「がんばろう東日本！アート支援助成事業」の助成金を受領して実施した。

4. 受託演奏

①神戸市立上筒井小学校 PTA 主催 コンサート

2019 年 5 月 11 日(土)

神戸フィルハーモニック団員 14 名にて演奏

②神戸市立小磯記念美術館 「再開記念コンサート」

2019 年 5 月 18 日(土) 午前 11 時開演、美術館ロビー

木管五重奏、指揮・司会 朝比奈千足

③学校法人フタバ幼稚園 (姫路市)

2019 年 7 月 5 日(土) 午前 10 時開演

神戸フィルハーモニック団員 3 名にて演奏

④「市民の第九」

主催: (公財)神戸市民文化振興財団、後援: 神戸市・神戸市教育委員会

2019 年 12 月 14 日(土) 15:00 開演、神戸文化ホール 大ホール

プログラム

L. V. ベートーヴェン／交響曲第 9 番ニ短調 Op. 125 「合唱付き」

ソプラノ: 老田裕子

アルト: 八木寿子

テノール: 清水徹太郎

バリトン: 池田真己

合唱: 神戸文化ホール第九合唱団

指揮: 朝比奈千足

入場者 1,304 人

II. 法人の現状

1. 個人会員 松本 俊行、富樫 芳彦、藤本 慎司 (以上設立時社員)
団体会員 三宝電機株式会社、富永貿易株式会社
2. 理事 藤本 慎司 (代表理事)
松本 俊行 (業務執行理事)
富樫 芳彦 (楽団長)
本間 充
福井 和郎
監事 浅野 忠 (神戸フィルハーモニック)
3. 楽団 (神戸フィルハーモニック)
 - (1) 団員数 82 名 (内休団中 18 名)
 - (2) 音楽監督(3 年契約) 兼 常任指揮者(単年度契約) 朝比奈千足
 - (3) 特別契約奏者 (コーチ)
榮嶋 道広 (コンサートマスター、フリー演奏家)
奥野 敬子 (第 2 ヴァイオリン首席、武庫川女子大学講師、
元神戸市室内合奏団員)
田中 次郎 (チェロ首席、神戸市室内管弦楽団員)
南出 信一 (コントラバス首席、神戸女学院大学講師)
4. 会議等に関する事項
 - (1) 社員総会
 - ・ 設立時社員総会
平成 31 年 4 月 20 日、 設立時社員全員出席
◇主たる事務所所在地および設立時理事および設立時監事 を決議した
 - (2) 理事会
 - ・ 設立時(平成元年度第 1 回) 理事会
令和 元 年 5 月 8 日、設立時理事 5 名のうち 3 名出席
◇設立時代表理事 を決議した
◇3 年以内の公益社団法人への移行を目標とすること を決議した
◇「神戸市文化芸術団体支援事業」に応募すること を決議した
 - ・ 平成元年度第 2 回 理事会
令和 2 年 3 月 27 日
◇ 1. 本会会員規定を制定した
◇ 2. 本会会費を決定した (理事会提案、社員総会決議)
◇ 3. 令和 2 年度事業計画ならびに予算を決定した
◇ 4. 正会員入会の件を承認した

III. 財務状況

財務状況の概要

当法人発足時に神戸フィルハーモニックがこれまでに自主公演を開催する際の会計の結果としてわずかながら資産を保有していた。また、本年度実施の演奏事業にかかわる前払い金があったので、併せて、設立時の資産とした。

本年度は「つなぐ KOBE アート募金」による収入があったこと、またニューイヤークンサートを他団体の主催とした、神戸フィルハーモニック後援会より例年より多めの助成金を得たこと等により、今年度経常経費にわずかな収支欠損にとどまった。ただし、令和元年度 5 月 10 日の法人発足前に行った事業で 10 万円程度の収益があり、令和元年度は実質 10 万円弱の黒字となっている。